

教育目標:	○健康で たくましく生きる ○みずから学び 創造する ○心豊かに互いを尊重する
めざす学校像:	○学ぶ喜びが実感できる学校 ○ふれあう喜びに満ちた学校 ○夢を育む学校 (校訓) 師弟同行、夢
めざす生徒像:	超スマート社会 Society5.0に向けて、世界の人々の幸福を願い、主体性を持って生きる人
めざす教師像:	授業実践を通して授業力を高め合える教師、適切な指導ができる教師、組織の一員として協力して職務を遂行できる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かな学力の伸長	ICTを活用した令和型教育により、学ぶ楽しさ、わかる喜び、学び続けようという意欲を育む授業を工夫し、確かな学力の伸長を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎的・基本的な知識及び技能の習得</li> <li>●主体的、対話的で深い学びの実現</li> </ul>	ICTを活用し、双方向の個別最適化された学びを充実することで、誰もが「わかる」「できる」授業を実現する。	3	3	4	4	タブレットの配布により、日常的にICTの活用がなされた結果、教師にとっては授業改善、生徒にとっては学びが充実した。	ICTは、情報提示の手段としての活用が多くを占めている。個別最適化された学びには、思考ツールとしての活用の研究を進めていく。
			討議、発表など学習形態を工夫し、自分の考えを自分の言葉で表現する場を数多く設ける。	3	2	4	4	討議、発表場面を制限せざるを得ない状況下であり、対話的な学びへの実現については若干、低い数値となった。	討議、発表については、JAM Board等のICTを活用することで学習形態の工夫が可能であり、その活用法について研究をしていく。
豊かな心の育成	人と人とのふれあいを通して、自己肯定感を高め、心豊かに自信をもって生きていく力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道徳教育の充実</li> <li>●学校文化としての二中らしさの継承と深化</li> </ul>	特別の教科道徳の趣旨を踏まえ、題材や発問を工夫することで「考える道徳」「議論する道徳」の授業を実現する。	1	1	4	4	「議論すること」に対する評価値が低かったことにより、成果指標は低い数値となった。一方で、生徒の学習満足度は高かった。	じっくりと考えさせることは達成できているので、教科の授業と同様にICTを活用することで互いに意見交換ができる工夫をしていく。
			生徒の活動を通して、二中の伝統を継承・深化させるとともに、責任感・協調性・自主自立の精神を育む。	2	2	3	1	できる範囲で異学年の交流を推進した。15回目となる「地域の安全・安心を考える会」も工夫により実現できた。	この2年間で中断・縮小していた諸活動を継承していくことが最大の課題である。改善という視点を含めて、新たな形での提案をしていく。
体力向上	コロナ禍における健康で安全な学校を目指し、たくましく生きていく力を育む	●運動の日常化による体力・運動能力の向上	授業や学校行事、部活動等で指導法を工夫し、運動の日常化を図る。	4	4	—	1	規模縮小はあったが、学校行事、部活動はほぼ実施できたので、生徒の体力向上の自覚は高かった。	「投力」を除いて体力調査の結果は低い。引き続き保健体育の授業を核として、体力向上に向けた取り組みを工夫していく。
特色ある教育活動の推進	特色ある教育活動を推進し、地域から信頼される学校を創造する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援教育の充実</li> <li>●部活動の改革</li> </ul>	学校行事による共同学習を工夫し、通常の学級と特別支援学級の交流を推進する。	4	1	2	2	運動会での交流は実現できたが、日常的な活動での交流が停滞した。	協力して進めていこうとする生徒の意欲は高いので、これを大切にして、できる活動を工夫していく。
			地域との組織作りを進め、学校と地域が協働した部活動の具体的な実現方策の見通しを立てる。	1	1	—	1	地域移行に関しては、時期尚早という評価である。先行しているサッカー、野球は、中期的な展望に立って準備が進んだ。	今後、文部科学省から具体案が示されるので、それを踏まえて進めていく。先行している取り組みの情報共有は確実に実施していく。